



Powered by



Symantec System Recovery 2013 & QNAP Turbo NAS 設定ガイド

株式会社シマンテック

セールスエンジニアリング本部

2014年9月

Symantec System Recovery 2013 & QNAP TS451 設定ガイド

1

Symantec System Recovery 2013
のインストール

SSR2013

2

初期設定

SSR2013

3

バックアップ先に利用する共有フォルダの作成
※QNAP TS451上に作成

TS451

4

バックアップジョブの作成

SSR2013

付
録

アジェンダ

1

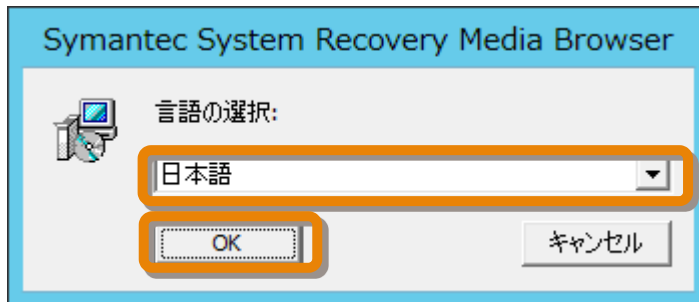
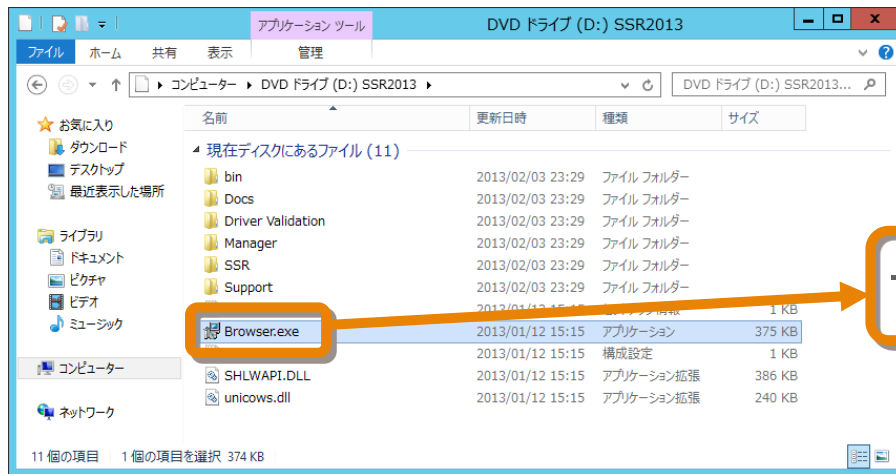
Symantec System Recovery 2013 のインストール

SSR2013

- 製品メディアからのインストール
- ライセンスキーの入力
- コンソールの起動

1. Symantec System Recovery 2013 のインストール

- 製品メディア内にある
「Browser.exe」をクリックします。



- 言語の選択画面が表示されますので
「日本語」が選択されている事を確認し、
を「OK」ボタンをクリックします。

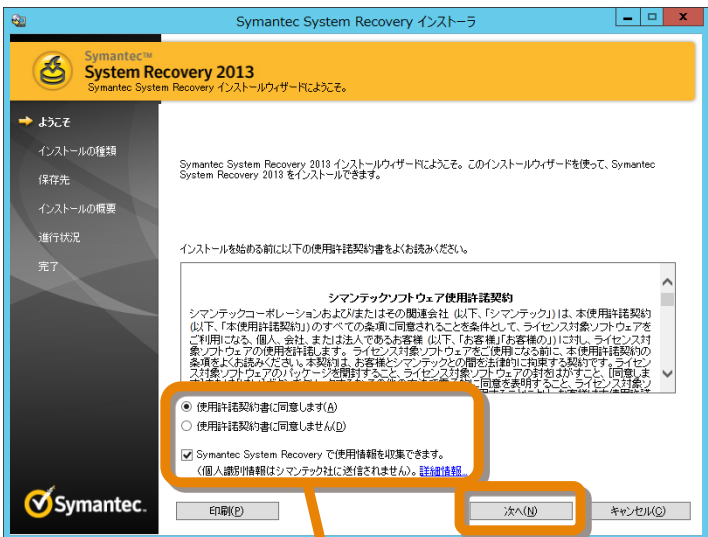
1. Symantec System Recovery 2013のインストール



- 「Symantec System Recovery Media Browser」が起動します。
- 「今すぐにインストール」をクリックします。

Symantec System Recovery 2013 :
今すぐにインストール

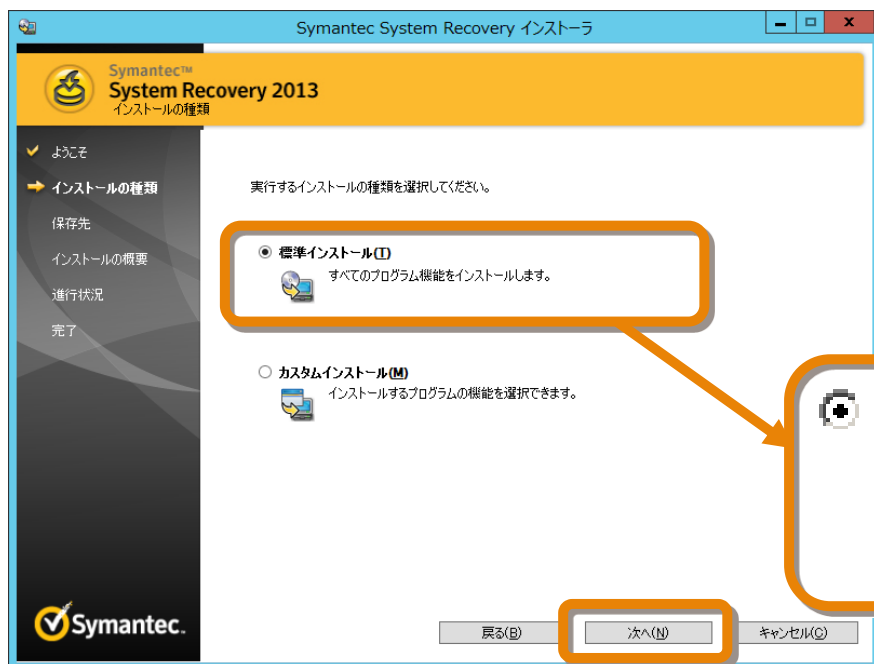
1. Symantec System Recovery 2013 のインストール



- しばらくすると、「シマンテックソフトウェア使用許諾契約」画面が表示されます。
- 「使用許諾契約の条項に同意します」にチェックを入れます。
- 匿名でのSSRの利用情報の送信についてご理解いただける場合には「Symantec System Recovery で使用情報を収集できます。」にチェックを入れます。
- 「次へ」をクリックします。

- ☒ Symantec System Recovery で使用情報を収集できます。
(個人識別情報はシマンテック社に送信されません)。 [詳細情報](#)

1. Symantec System Recovery 2013 のインストール



- 実行するインストールの種類を選択します。

通常は「標準インストール」を選択し、「次へ (N) 」をクリックします。

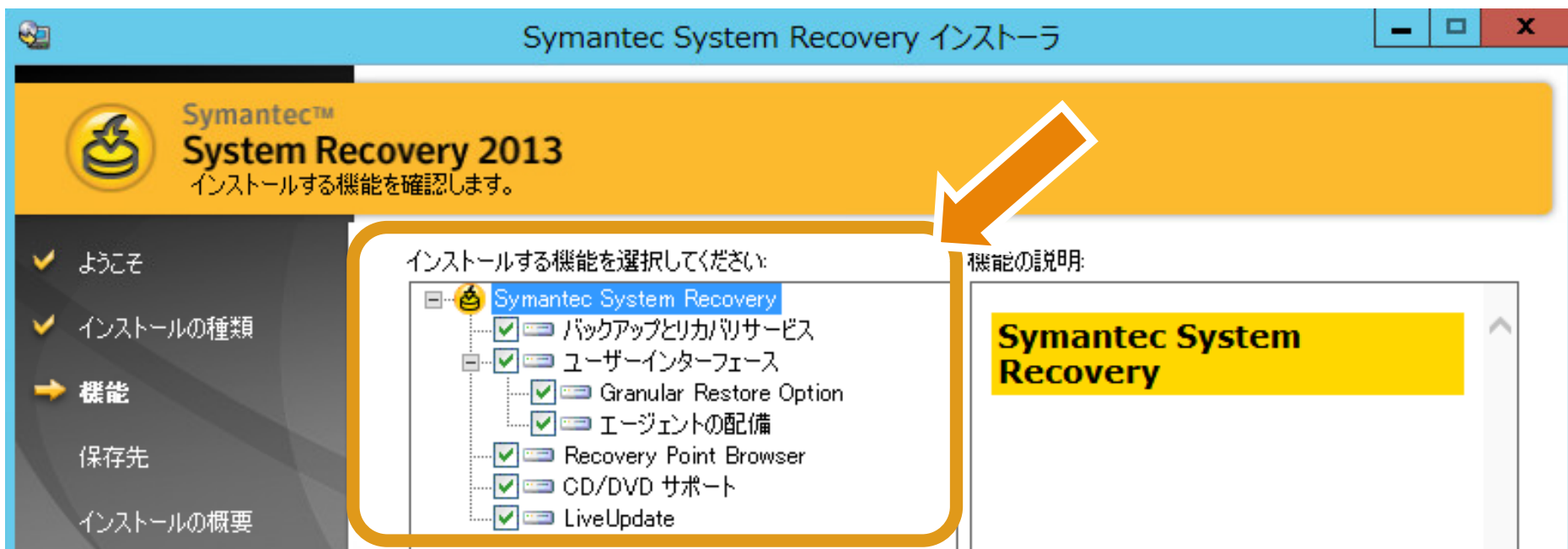
☒ 標準インストール(N)



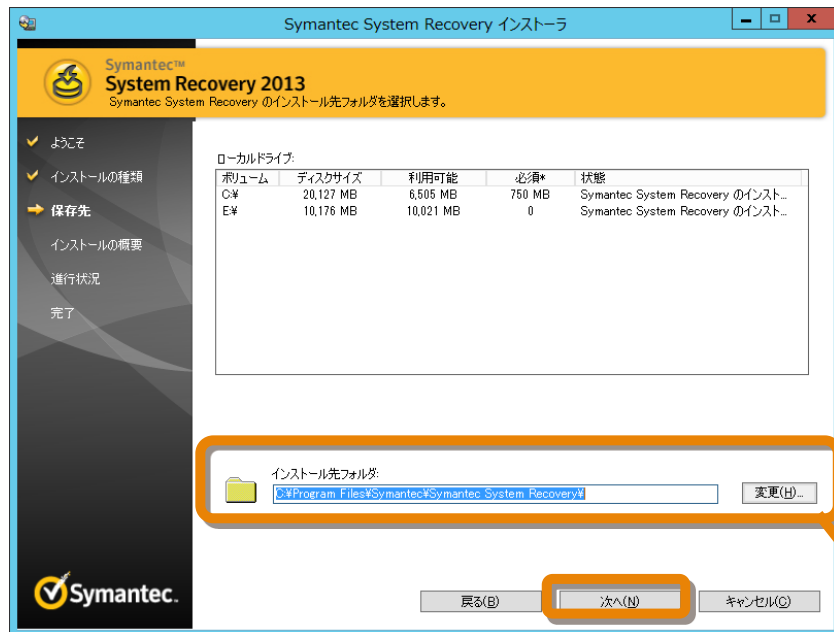
すべてのプログラム機能をインストールします。

カスタムインストールについて

- Symantec System Recovery 2013 のインストール時にカスタムインストールを選択すると各種コンポーネントのインストール有無が選択できます。
- 集中管理を前提とするので、GUIは不要といった場合やリストア作業は管理者のみが行うのでRecovery Point Browserは不要といった場合などに、カスタムインストールは役立ちます。



1. Symantec System Recovery 2013 のインストール



- インストール先のフォルダを選択します。
通常、デフォルトの設定のまま
「次へ」をクリックします。

インストール先フォルダ:

C:\Program Files\Symantec\System Recovery\

1. Symantec System Recovery 2013 のインストール



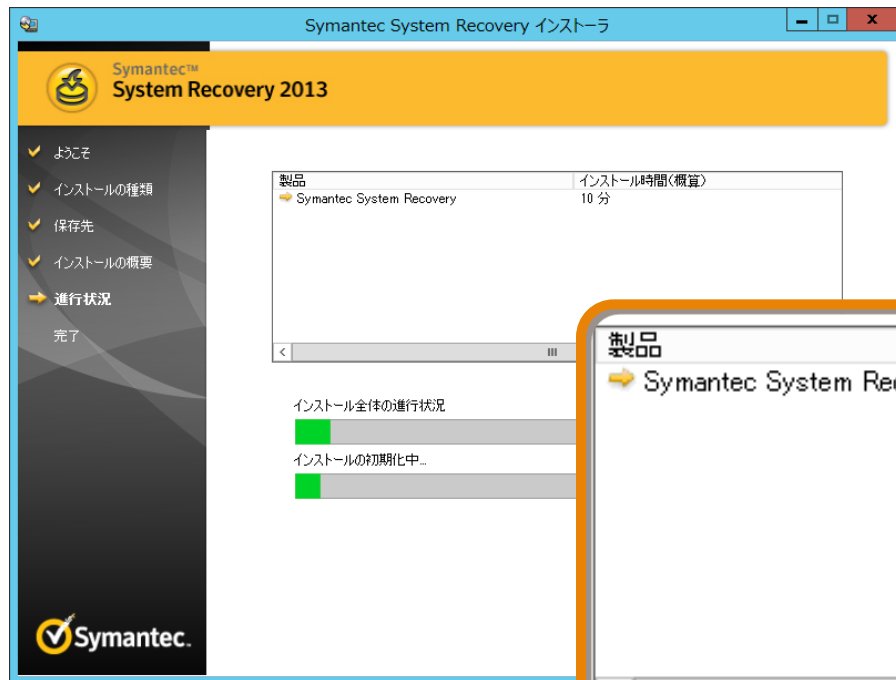
- インストール内容の確認画面が表示されます。

インストールの内容は
既定のフォルダに保存されます。
「インストール」をクリックします。

— 概略の保存場所 —

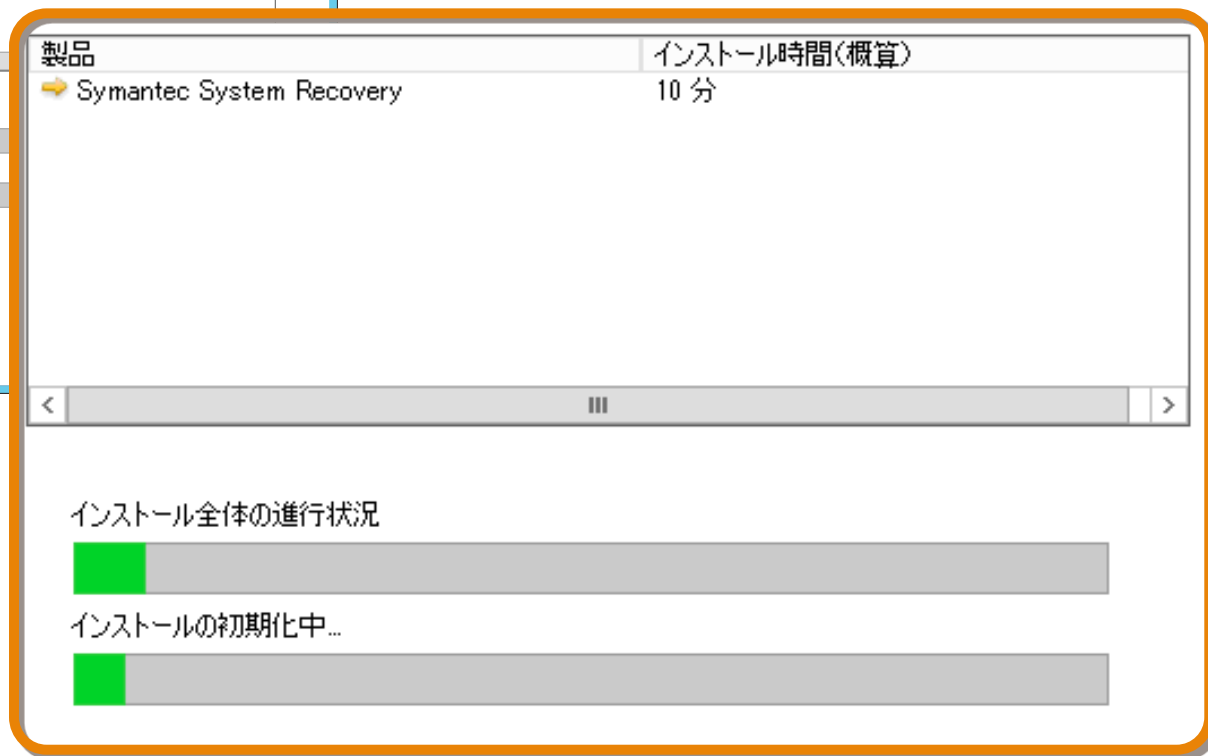
C:\ProgramData\Symantec\System Recovery\Logs\InstallSummary\SSR0

1. Symantec System Recovery 2013 のインストール

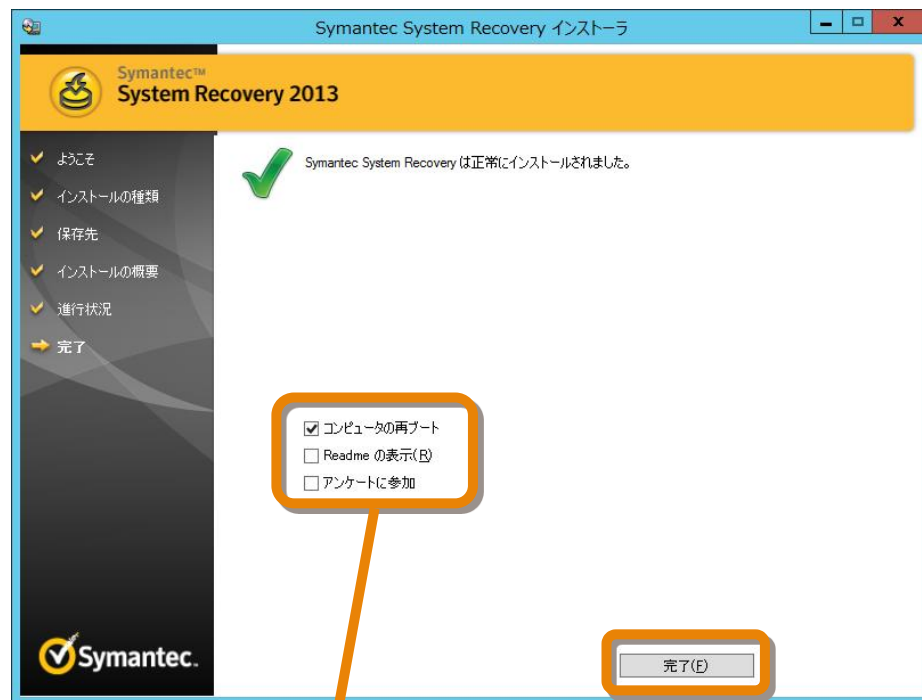


- インストールが開始され
インストールの進行状況が
表示されます。

目安の時間が表示されます。



1. Symantec System Recovery 2013 のインストール



- しばらくして、インストールの完了画面が表示されます。

コンピュータの再起動を
すぐに行って構わない場合は
「コンピュータの再ブート」に
チェックをいれます。

その他、「Readmeの表示」
「アンケートに参加」に
適時チェックを入れた後
「完了 (F)」ボタンを
クリックします。

- ☒ コンピュータの再ブート
- ☐ Readme の表示(R)
- ☐ アンケートに参加

インストール完了には必ず再起動が必要です。
どこかのタイミングで必ず再起動を行って下さい。

1. Symantec System Recovery 2013 のインストール

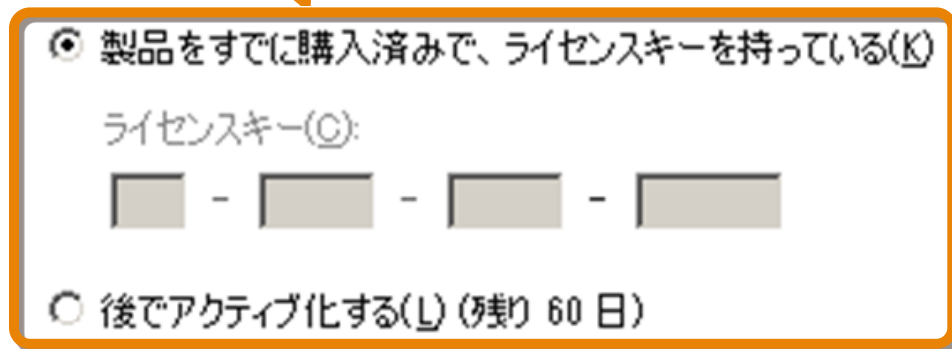


- 再起動後
「Symantec System Recovery
2013 へようこそ」
の画面が表示されますので
「次へ」 ボタンをクリックして下さい

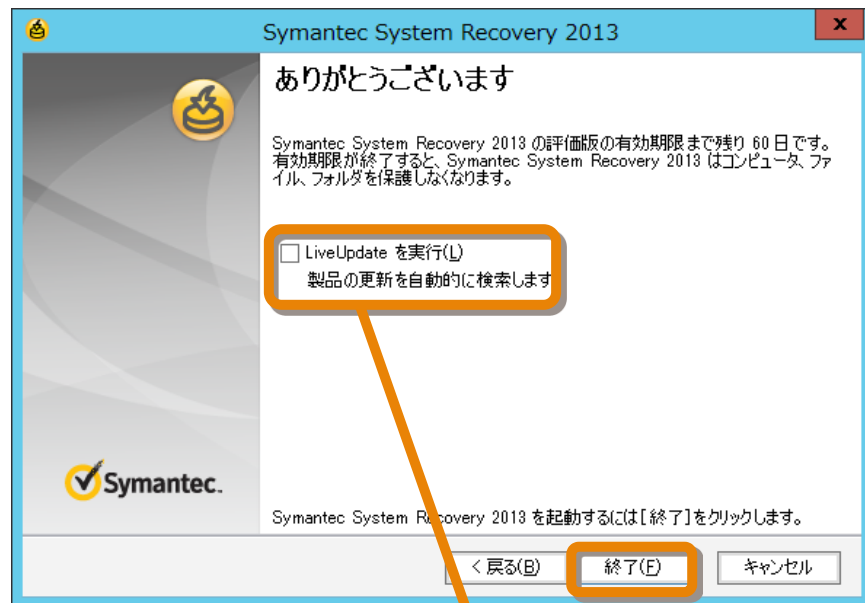
1. Symantec System Recovery 2013 のインストール



- 「製品のアクティブ化」画面が表示されます。
- 既にライセンスをご購入頂いている場合は、ライセンスキーを入力します。
- 評価版でご利用の場合には「後でアクティブ化する」にチェックを入れます。
- 「次へ」ボタンをクリックします。



1. Symantec System Recovery 2013 のインストール



☒ LiveUpdate を実行(L)
製品の更新を自動的に検索します。

- 「製品のアクティブ化」画面の後、「ありがとうございます」と書かれた画面が表示されます。

インストールを行ったコンピューターがインターネットに接続されている場合は「LiveUpdateを実行」のチェックボックスにチェックを入れて「終了」ボタンをクリックし最新のService Packの適用を行います。

インターネットに接続されていない場合には、チェックを外し「終了」ボタンをクリックして下さい。また、以下のURLより最新のService Packをダウンロードし別途適用を行って下さい。

http://www.symantec.com/business/support/index?page=content&key=53845&channel=TECHNICAL_SOLUTION&basecat=DOWNLOADS&version=61396&sort=recent

アジェンダ

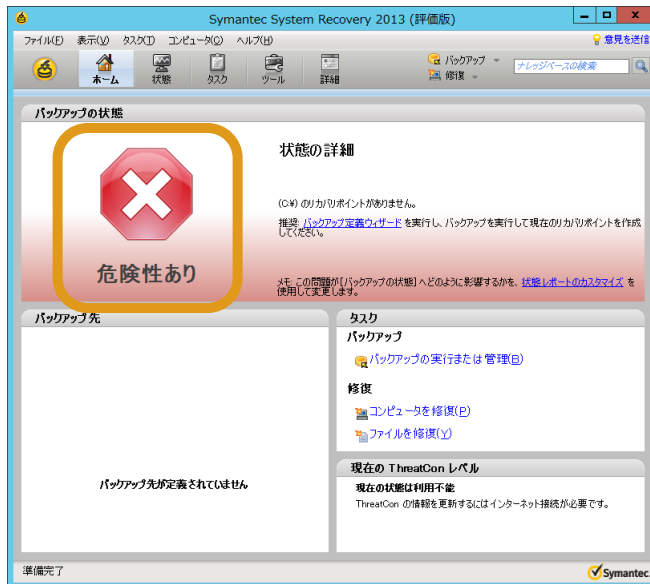
2

初期設定

SSR2013

- 状態レポートのカスタマイズ
- サービスの状態確認

2. 初期設定



- SSRの管理画面のホームタブにてバックアップの状態が

「危険性あり」となっている事を確認します。



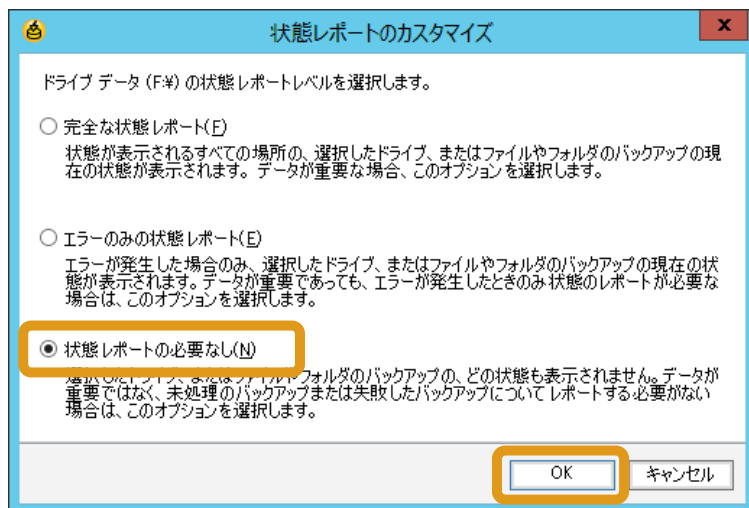
- 管理画面右上にある「詳細」タブをクリックします。

2. 初期設定



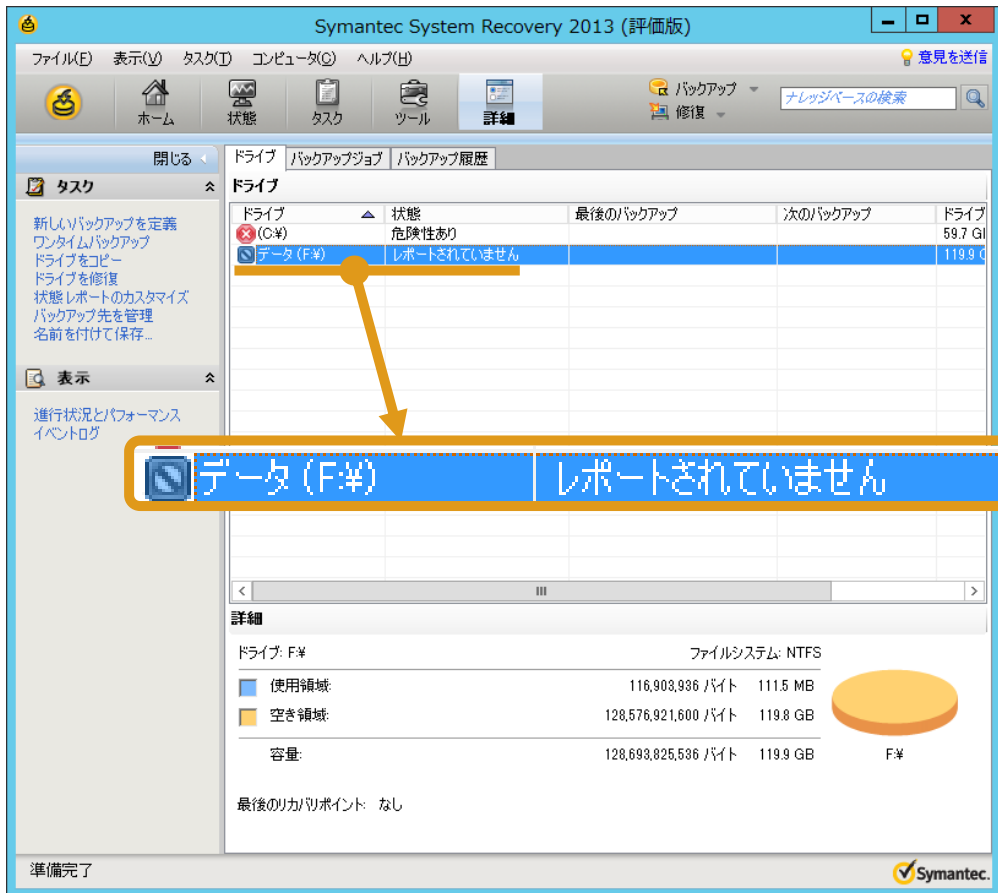
- 表示されているドライブのうちバックアップ対象外のボリュームの状態が「危険性あり」になっている事を確認し各バックアップ対象外のボリューム毎に右クリックします。

- 表示されるメニューから「状態レポートのカスタマイズ」をクリックします。



- 「状態レポートのカスタマイズ」画面が表示されます。
- 「状態レポートの必要なし (N)」の左側のラジオボタンにチェックを入れます。
- 「OK」 ボタンをクリックします。

2. 初期設定



- 表示されているドライブのうち各バックアップ対象外のボリュームの状態が「レポートされていません」になっている事を確認します。

※デフォルトでは、全てのボリュームのバックアップ
※を行うまでホームタブのステータスが「安全」になりません。

- ※状態レポートの設定を変更する事で
- ※バックアップ対象のボリュームのみのバックアップで
- ※ホームタブのステータスが「安全」と
- ※表示されるようになります。

アジェンダ

TS451

3

バックアップ先に利用する共有フォルダの作成

※QNAP TS451上に作成

- Qfinderのインストール
- TS451の管理コンソールへのログイン
- 共有フォルダの作成
- アクセスに利用するアカウントの設定

3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成

- http://www.qnap.com/v3/jp/product_x_down/よりQNAP Qfinder for Windows をダウンロードします

ダウンロードセンター

ディリティをダウンロードできません。

カテゴリ: Type: モデル名:

最近のダウンロードセンター

説明	バージョン	ファイルサイズ	期日	ダウンロード	Notes
QNAP Qsync for Mac	1.0.5 Build 0729	11.8 MB	2014/07/31	Global Europe USA	
QNAP Qfinder for Windows	4.2.1 Build 0722	33.2 MB	2014/07/31	Global Europe USA	
QNAP Qfinder for Mac	1.1.5 Build 0710	6.4 MB	2014/07/24	Global Europe USA	
QGet for Windows	3.1.6 Build 0704	3.4 MB	2014/07/21	Global Europe USA	

3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成



- ダウンロードした
Exeファイルをダブルクリックし
インストーラーを起動します。



- セキュリティの警告が
表示される場合には
「実行」ボタンを
クリックします。

3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成



- 言語の選択画面が表示されます。
- 「日本語」を選択し「OK」ボタンをクリックします。

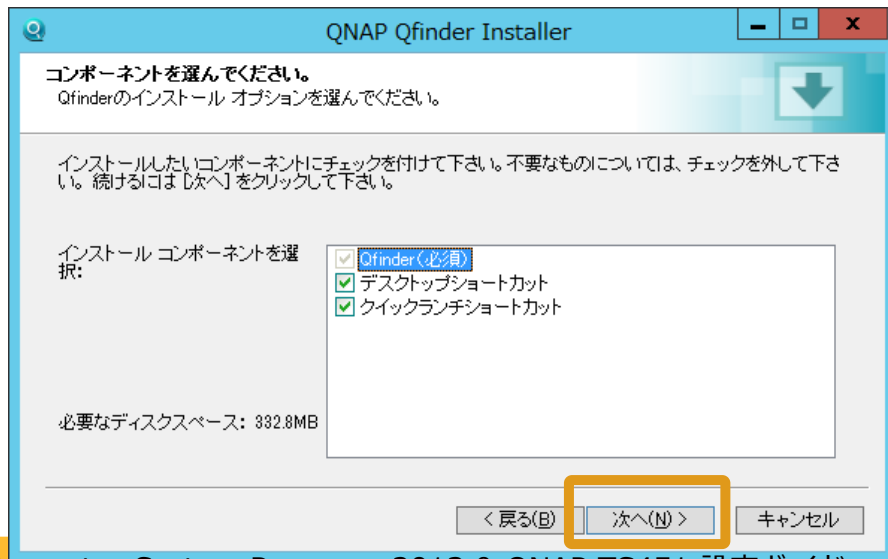


- セットアップウィザードが実行されます。
- 「次へ」ボタンをクリックします。

3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成



- ライセンス契約書画面が表示されます。
- 「次へ」ボタンをクリックします。

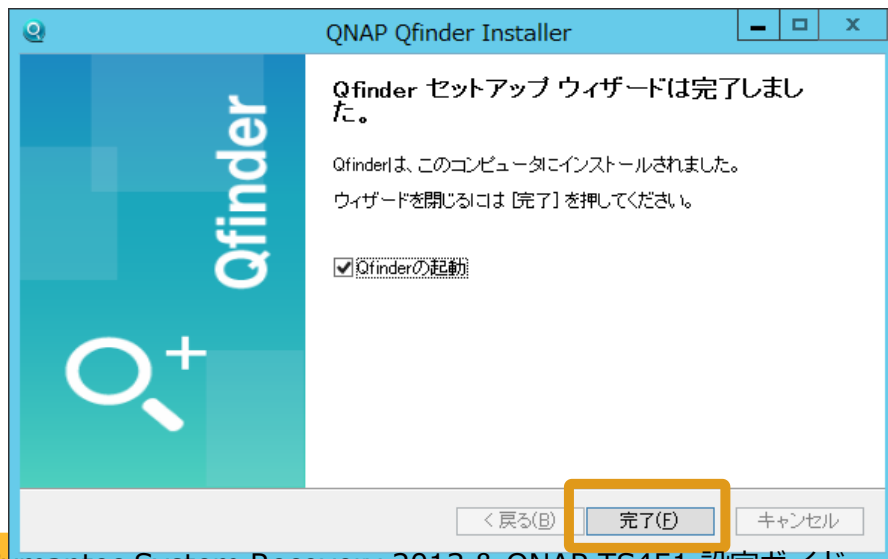


- インストールを行うコンポーネントの選択画面が表示されます。
- 「次へ」ボタンをクリックします。

3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成



- インストール先フォルダの設定画面が表示されます
- 「インストール」 ボタンをクリックします。



- インストールの完了画面が表示されます。
- 「完了」 ボタンをクリックします。

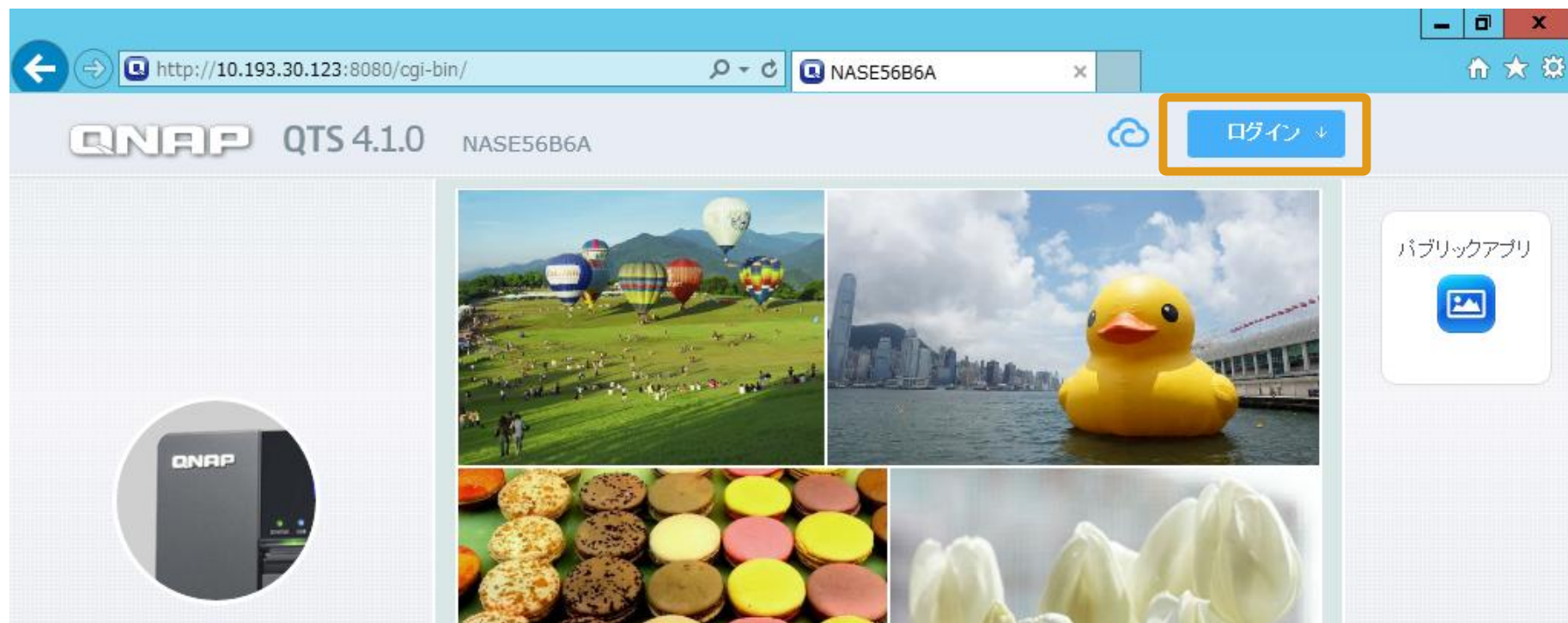
3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成

- QNAP Qfinderが起動します。
また、ネットワーク上に存在するQNAP社製NASを自動的に検出します
- 設定を行うNASが検出されたら
「ログイン」ボタンをクリックします。



3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成

- QNAP TS451へのログイン画面が表示されます。
- 画面右上の「ログイン」ボタンをクリックします。



3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成



The image shows a login form for the QNAP management console. It has a light blue background. The form is enclosed in a white box with a thin orange border. Inside the box, there are two input fields: 'ユーザー名' (Username) with the text 'admin' entered, and 'パスワード' (Password) with masked characters '.....'. To the right of the password field is a blue button with a white right-pointing arrow. Below the input fields are two checkboxes: the first is labeled 'このアカウントを記憶する' (Remember this account) and the second is labeled 'セキュリティ保護されたログイン' (Secure login).

- ユーザー名およびパスワードを入力し、「>」ボタンをクリックします。

※デフォルトのユーザー名とパスワードは
※admin/adminです。

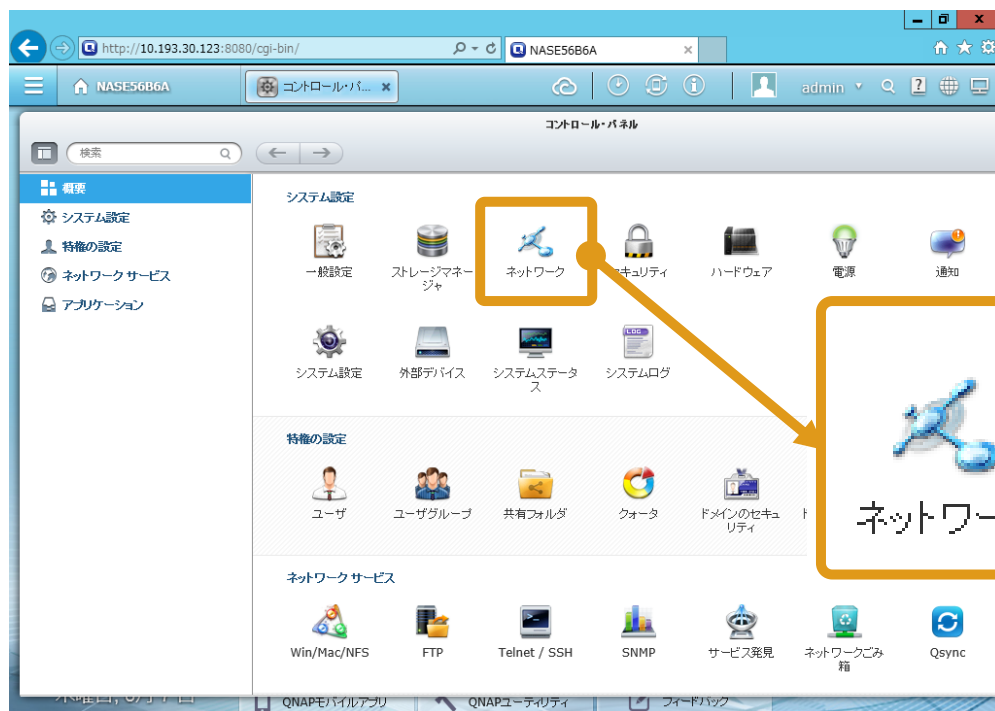


- TS451の管理コンソールが表示されます。

3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成

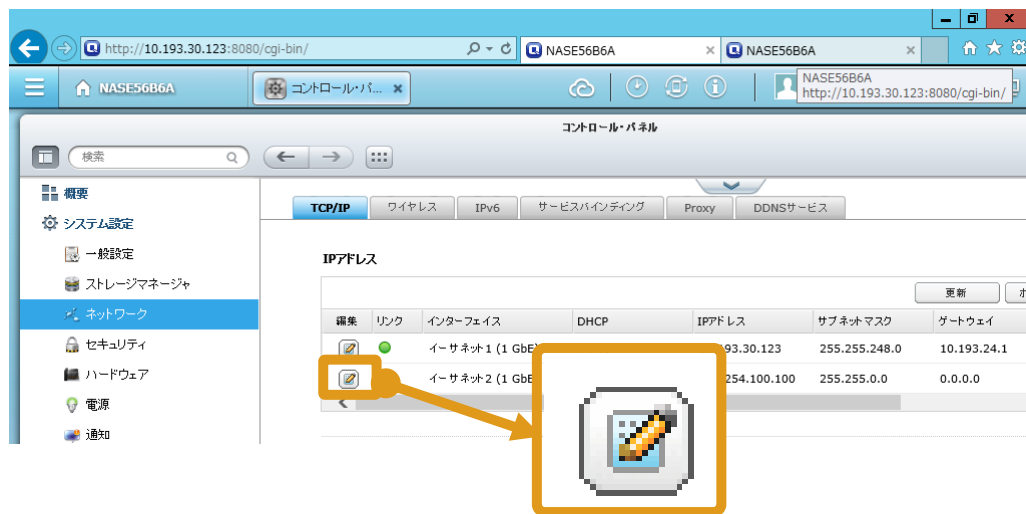


- 「コントロール」ボタンをクリックします。

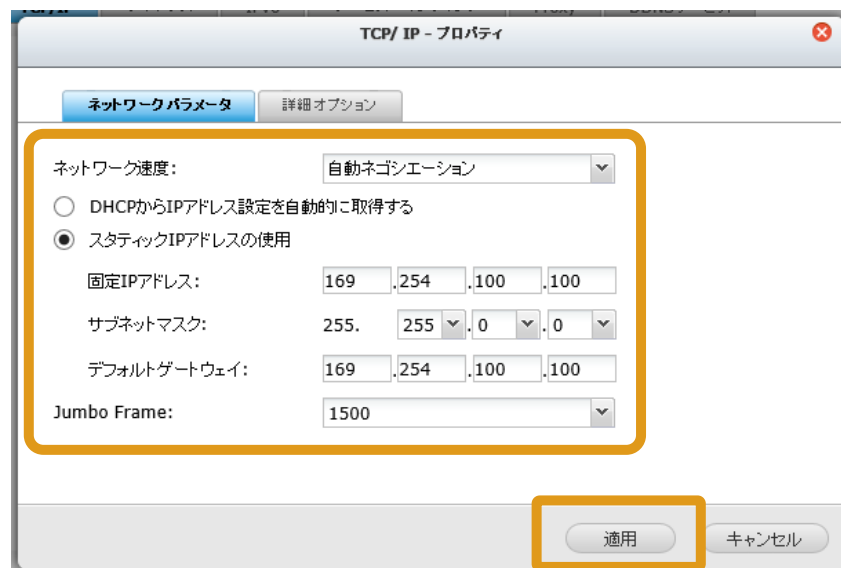


- コントロールパネル画面が表示されます
- 「ネットワーク」を選択します。

3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成

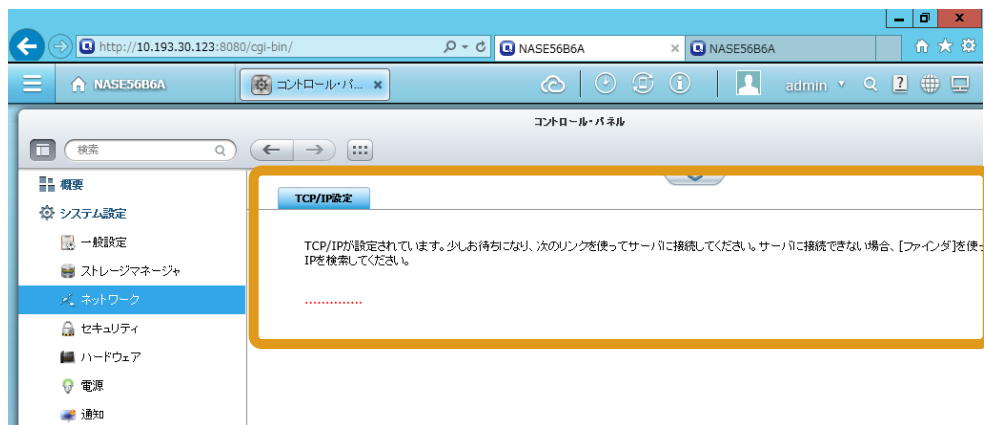


- ネットワークの設定画面が表示されます。
- 設定するネットワークアダプタの左側にある編集アイコンをクリックします。



- IPアドレスの設定画面が表示されます。
- 任意のIPアドレスに設定し「適用」ボタンをクリックします。

3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成



- 設定を適用している旨表示されます。。



- 少し経つと、「ここをクリックすると、新しいアドレスに移動します」とのリンクが表示されます。
- リンクをクリックします。

3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成



- IPアドレスの設定完了後
コントロールパネル画面に戻り
「共有フォルダ」を
クリックします



- 共有フォルダの管理画面が
表示されます。
- 画面上部の「作成」ボタンより
「共有フォルダ」を選択します。

3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成

共有フォルダの作成

次のフィールドに記入して共有フォルダを作成してください

フォルダ名:

説明:

共有フォルダを作成するディスクボリュームを選択してください。

ユーザーのアクセス権限の構成

現在、管理者のみがこのフォルダへの完全なアクセス許可を持っています。

詳細設定

ゲストアクセス権、ごみ箱、隠しフォルダなどの設定を構成します。

- 共有フォルダの作成画面が表示されます。
- フォルダ名などを設定後「作成」ボタンをクリックします。

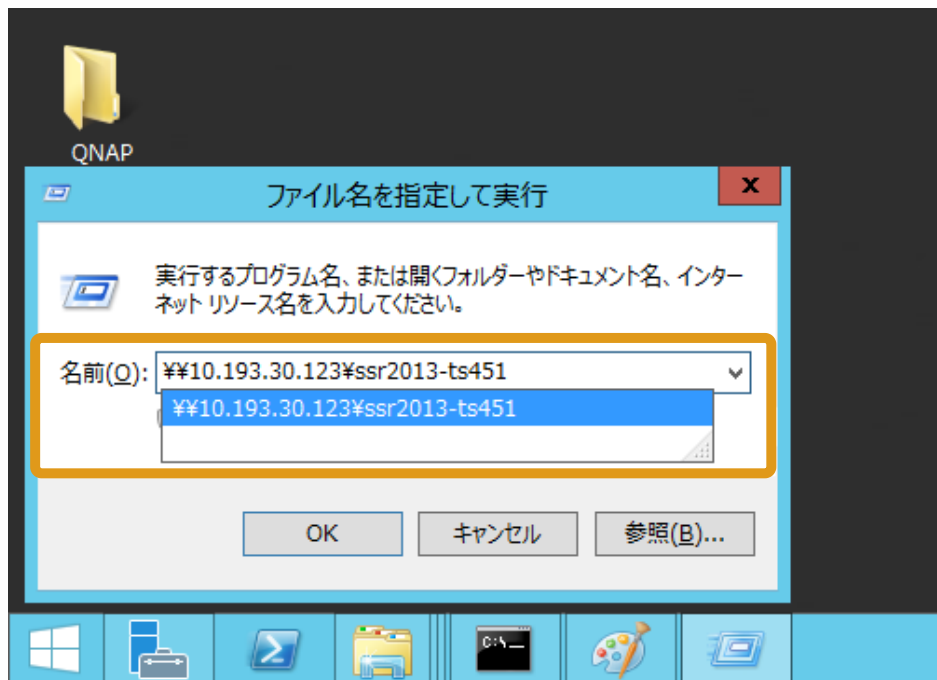
共有フォルダ

フォルダ名	サイズ	フォルダ	ファイル	非表示	ボリューム
Download	8 KB	1	0	いいえ	DataVol1
Multimedia	7.68 MB	5	49	いいえ	DataVol1
Public	8 KB	1	0	いいえ	DataVol1
Recordings	8 KB				
Web	12 KB				
homes	16 KB				
ssr	454.46 GB	1	91	いいえ	DataVol1
ssr2013-ts451	8 KB	1	0	いいえ	DataVol1

- 作成した共有フォルダが共有フォルダのリスト上に表示されることを確認します。

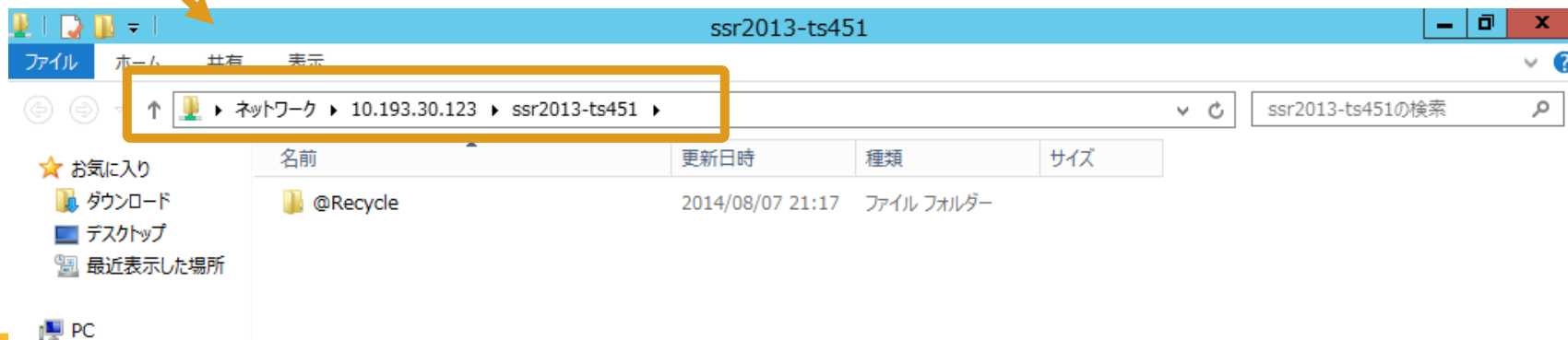
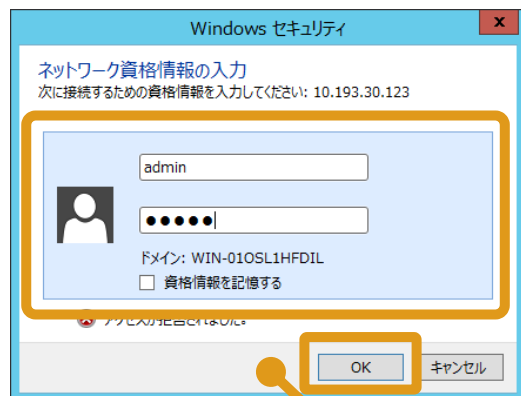
3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成

- ブラウザを閉じます。
- Windows側から作成した共有フォルダにアクセス出来るか確認します。
- 「Windows」 + 「R」 キーを押下し、「ファイル名を指定して実行」より「¥¥<設定したTS451のIPアドレス>¥¥<作成した共有フォルダ名>」と入力します。



3. バックアップ先に利用する共有フォルダの作成

- ログイン画面が表示されます。
- 作成した共有フォルダにアクセス出来るネットワーク資格情報を入力し「OK」ボタンをクリック後、作成した共有フォルダが表示されればバックアップ先に利用する共有フォルダの作成は完了です。



アジェンダ

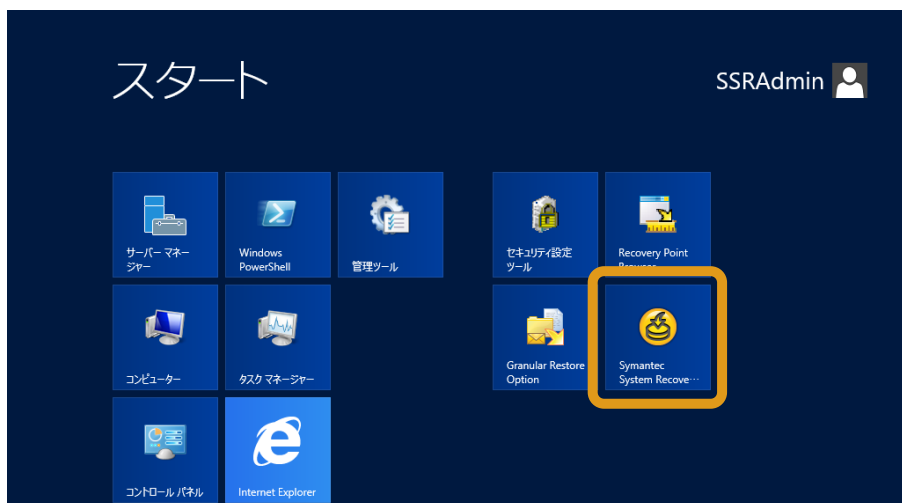
4

バックアップジョブの作成・実行

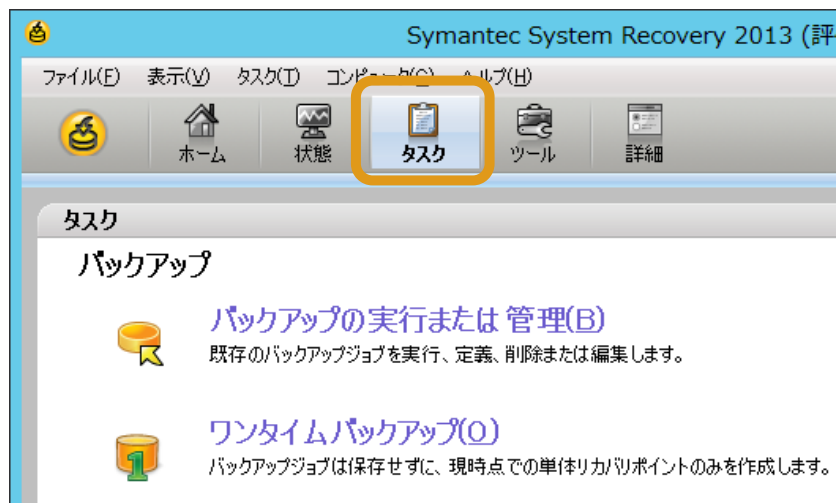
SSR2013

- バックアップジョブの作成・実行
- バックアップの状態の確認

4. バックアップジョブの作成・実行

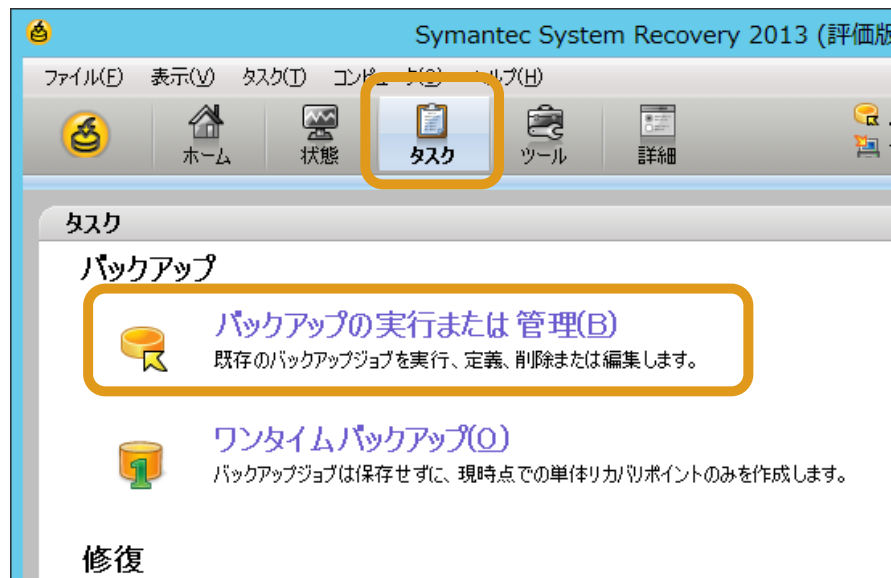


- スタートボタンから
「すべてのプログラム (P)」
⇒ 「Symantec System Recovery」
⇒ 「Symantec System Recovery 2013」
を選択し、SSRの管理コンソールを
起動します。



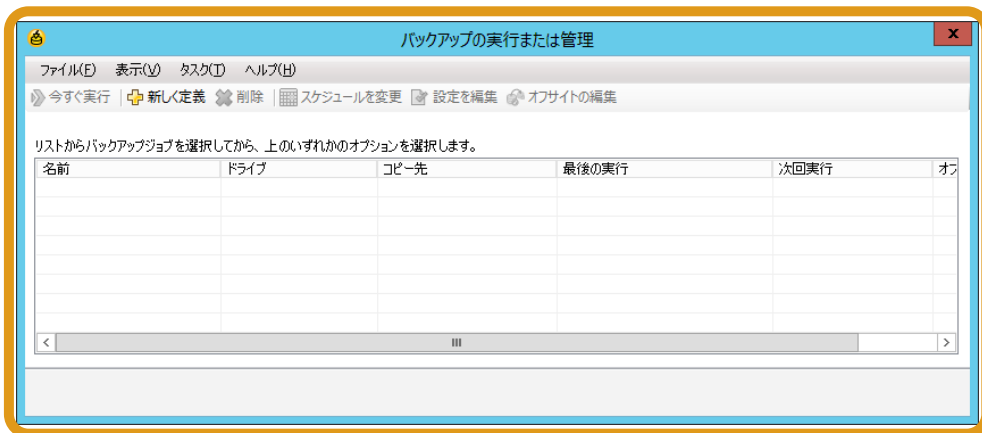
- 管理コンソールが表示されたら
「タスク」タブを選択します。

4. バックアップジョブの作成・実行

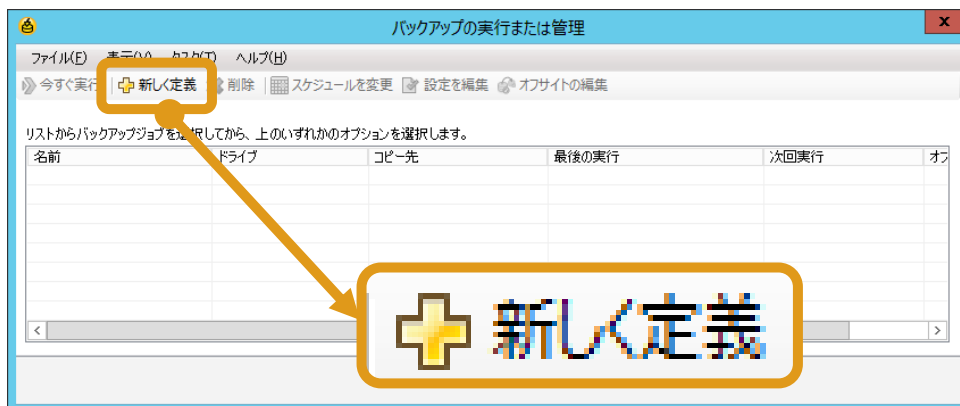


- 「タスク」タブが表示されたら
「バックアップの実行
または管理 (R) 」
をクリックします。

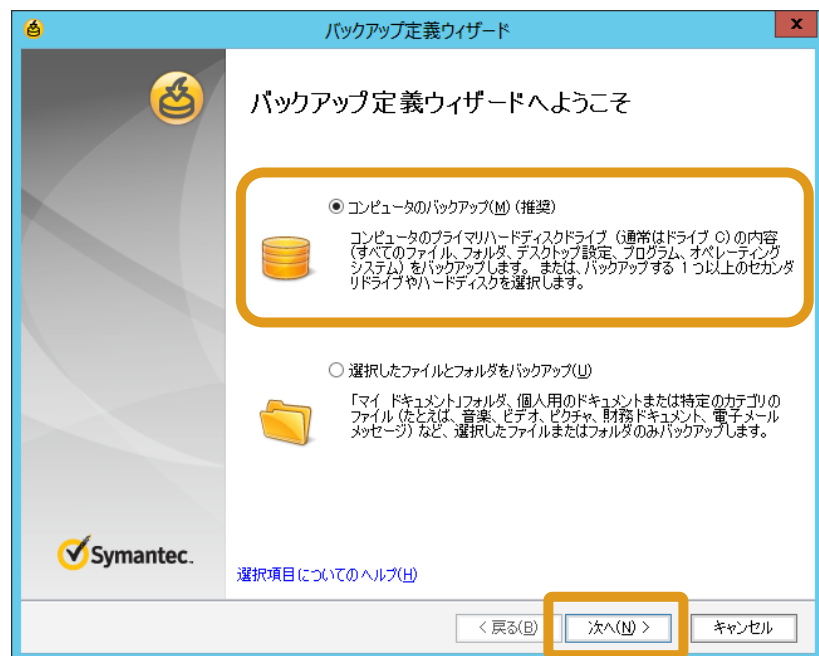
- 「バックアップの実行または管理」
画面が新たに表示されます。



4. バックアップジョブの作成・実行



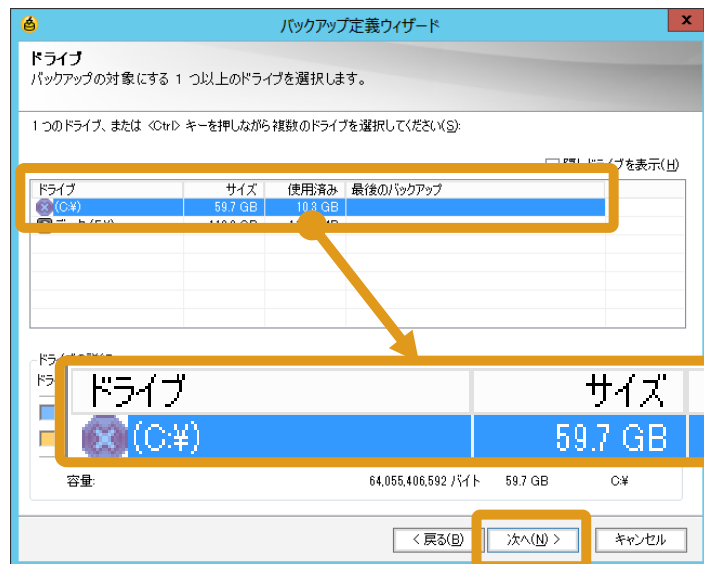
- 「バックアップの実行または管理」画面の上部にある「新しく定義」ボタンをクリックします。



- 「バックアップ定義ウィザード」画面が新たに表示されます。
- 「コンピュータのバックアップ (M) (推奨)」が選択されている事を確認し「次へ (N)」をクリックします。

※ボリューム単位でバックアップを行う場合に
※「コンピュータのバックアップ (推奨)」を選択します。
※もし、ボリューム単位でのバックアップを行わず
※任意のファイルやフォルダ単位でバックアップを行うには
※「選択したファイルとフォルダのバックアップ」を選択します。

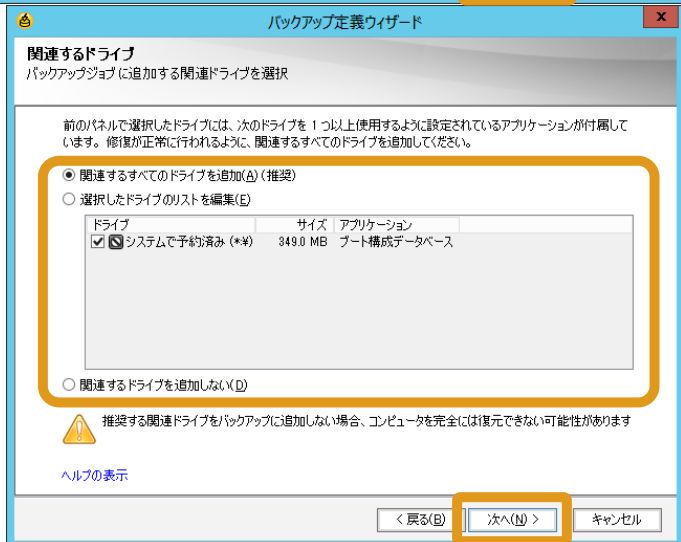
4. バックアップジョブの作成・実行



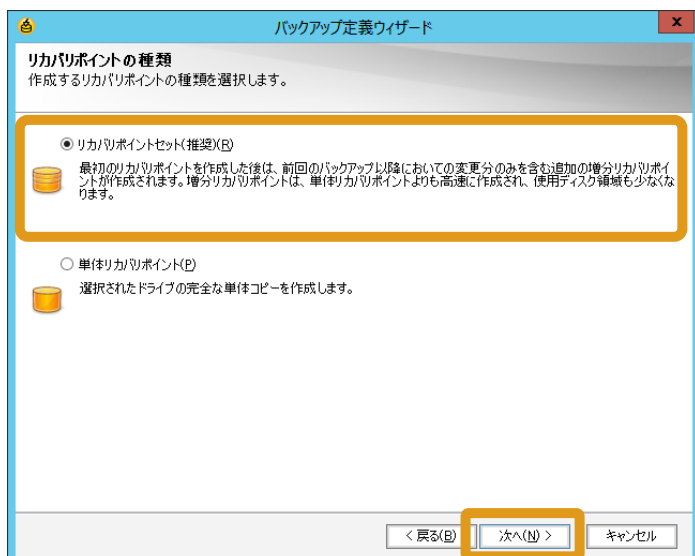
- バックアップの対象にするドライブを選択する画面が表示されます。
- バックアップ対象ドライブを選択します
「次へ (N)」をクリックします。

※バックアップ対象ボリュームが
※Windows 7, Windows Server 2008 R2以降の
※システムボリュームなどの関連するボリュームが
※コンピューター上に存在する環境野場合
※関連するドライブの画面が表示されます。

- 表示内容に問題がなければ
「次へ (N)」をクリックします。



4. バックアップジョブの作成・実行



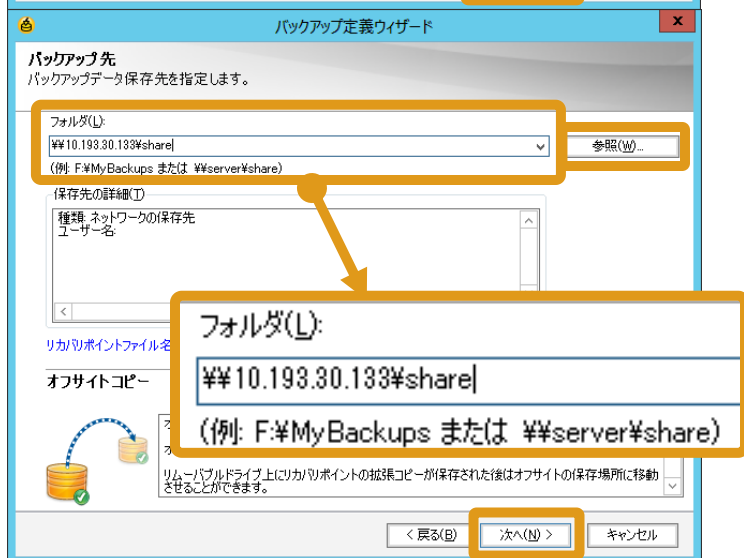
- 次に、リカバリポイントの種類を選択する画面が表示されます。
- 「リカバリポイントセット（推奨）（R）」が選択されている事を確認し「次へ（N）」をクリックします。

※増分バックアップを行う場合には

※「リカバリポイントセット（推奨）」を選択します。

※増分バックアップを行わず、毎回フルバックアップを行う場合には

※「単体リカバリポイント」を選択します。



- バックアップ先を設定する画面が表示されます。
- フォルダ欄に、先ほど作成したTS451の共有フォルダを ¥¥<TS451のIPアドレス or ホスト名> ¥共有フォルダ名の形式で入力します。
- 「次へ（N）」をクリックします。

4. バックアップジョブの作成・実行

ネットワークの保存先

選択したネットワーク上の保存先の資格情報を編集します。

フォルダ(L): ¥¥10.193.30.133¥share¥

ネットワーク資格情報

ユーザー名(U): 10.193.30.131¥administrator

パスワード(P): *****

OK キャンセル

- バックアップ先へのアクセスに使用するアカウントの設定画面が表示されます。
- 利用するアカウントの「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。
- 「OK」ボタンをクリックします。

バックアップ定義ウィザード

オプション
リカバリポイントオプションを指定します。

名前(M): 2013年10月10日(木)のドライブバックアップ

圧縮(O): 標準(推奨)

☐ 作成後のリカバリポイントを検証(Y)

☒ このバックアップに保存するリカバリポイントセット数を制限(L)

最大(M): 3

詳細(A)... コマンドファイル(F)...

各リカバリポイントに含まれる説明(D):

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

- 次に、バックアップジョブの名前などを設定する画面が表示されます。
- バックアップジョブの名前を名前欄に入力します。
- 「このバックアップに保存するリカバリポイントセット数を制限 (L)」にて残しておきたいバックアップデータの世代数を設定します。
※世代数の設定はバックアップデータ量を踏まえて設定します。
※バックアップデータ量の計算は付録を参考にしてください。
- 「次へ (N)」をクリックします。

4. バックアップジョブの作成・実行

- 「バックアップ時刻」画面が表示されます。
- 画面中段にある
「新しいリカバリポイントセット（ベース）の
作成を開始するタイミング」
がフルバックアップを行うスケジュールです。

※フルバックアップは、毎週、毎月、四半期、毎年 of のいずれかにて
※定期的に行うよう設定します。

- 画面上部にある「スケジュール」欄が
増分バックアップを行うスケジュールです。

※増分バックアップは、実行する曜日の設定を行います。
※設定した曜日には毎週増分バックアップが行われます。

※画面右の「詳細」ボタンより、1日に複数回の実行や
※データの増加量をトリガーとしたバックアップも
※スケジュール設定に加えて設定する事が可能です。
※詳細はSymantec System Recovery 2013ユーザーズガイドを
※ご覧ください。

- それぞれ設定が完了したら
「次へ」ボタンをクリックします。

バックアップ時刻
バックアップを実行するタイミングと頻度を指定

スケジュール(E)

スケジュール(E)

開始時刻(I): 22:00

日(S) 月(O) 火(L) 水(W) 木(H) 金(F) 土(Y)

1日に複数回実行(M)

新しいリカバリポイントセット(ベース)の作成を開始するタイミング(B):

週単位のカスタマイズ カスタム(O)...

イベントリガを選択する(G)

フルバックアップの
スケジュール設定
【繰り返し頻度と時間】

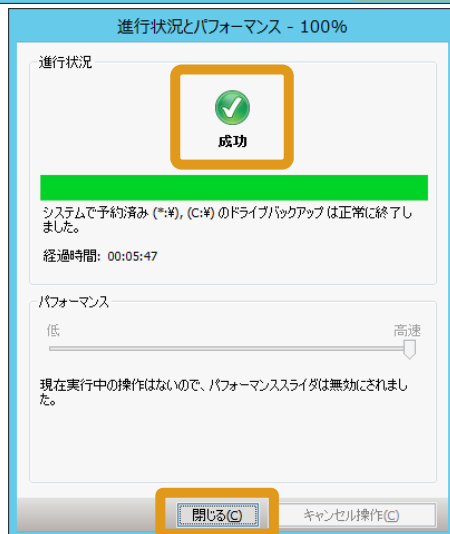
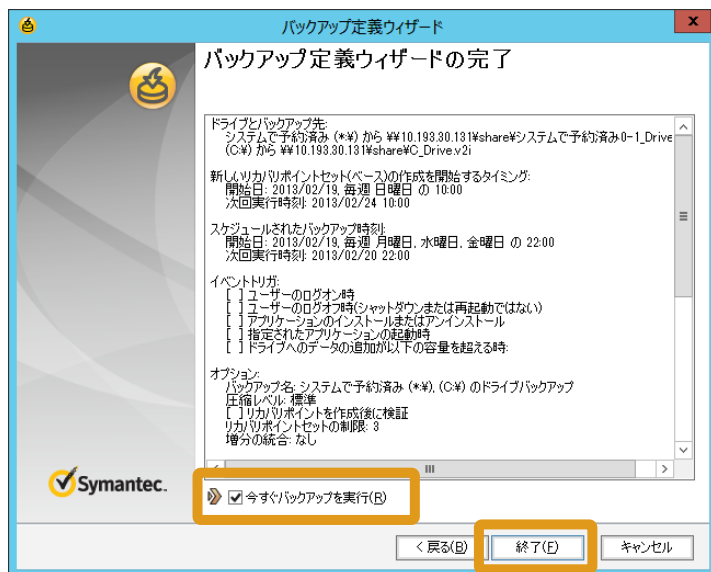
繰り返し頻度の
細かな設定は
「カスタム」ボタンで行
う

増分バックアップの
スケジュール設定
【曜日と時間】

デフォルト(D) 詳細(V)...

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

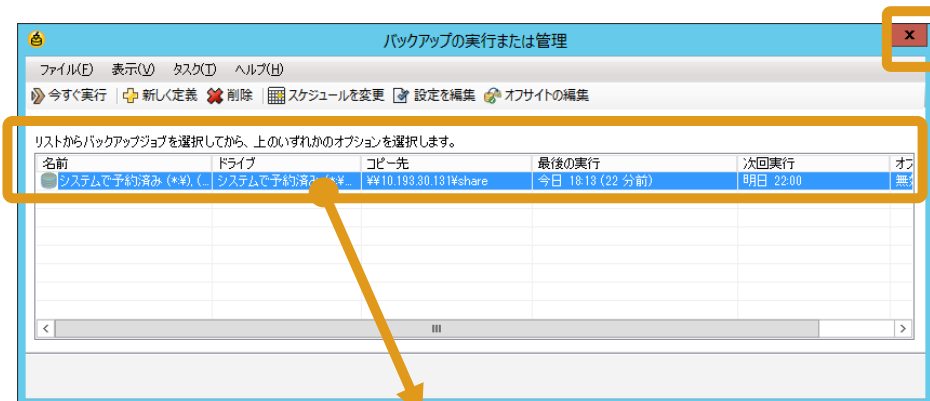
4. バックアップジョブの作成・実行



- 「バックアップ定義ウィザードの完了」画面が表示されます。
- ジョブの内容を確認します。
- ジョブ作成後、すぐにバックアップを実行する場合には、画面下部にある「今すぐバックアップを実行 (R)」にチェックを入れます。
- 「終了 (F)」 ボタンをクリックします。
- バックアップ定義ウィザードの終了後、「今すぐバックアップを実行」にチェックを入れていた場合、すぐにバックアップが開始されます。
- バックアップが正常に終了した場合、「成功」と表示されます。
- 「閉じる」をクリックします。

4. バックアップジョブの作成・実行

- バックアップジョブの作成完了後、「バックアップジョブの実行または管理」画面が再度表示されます。
- 次回実行のスケジュールが表示されている事を確認し「バックアップの実行または管理」画面を閉じます。



名前	ドライブ	コピー先	最後の実行	次回実行
システムで予約済み (*¥) (...)	システムで予約済み (*¥) (...)	¥¥10.193.30.131¥share	今日 18:13 (22 分前)	明日 22:00

※以上で、バックアップジョブの作成は
※完了です。

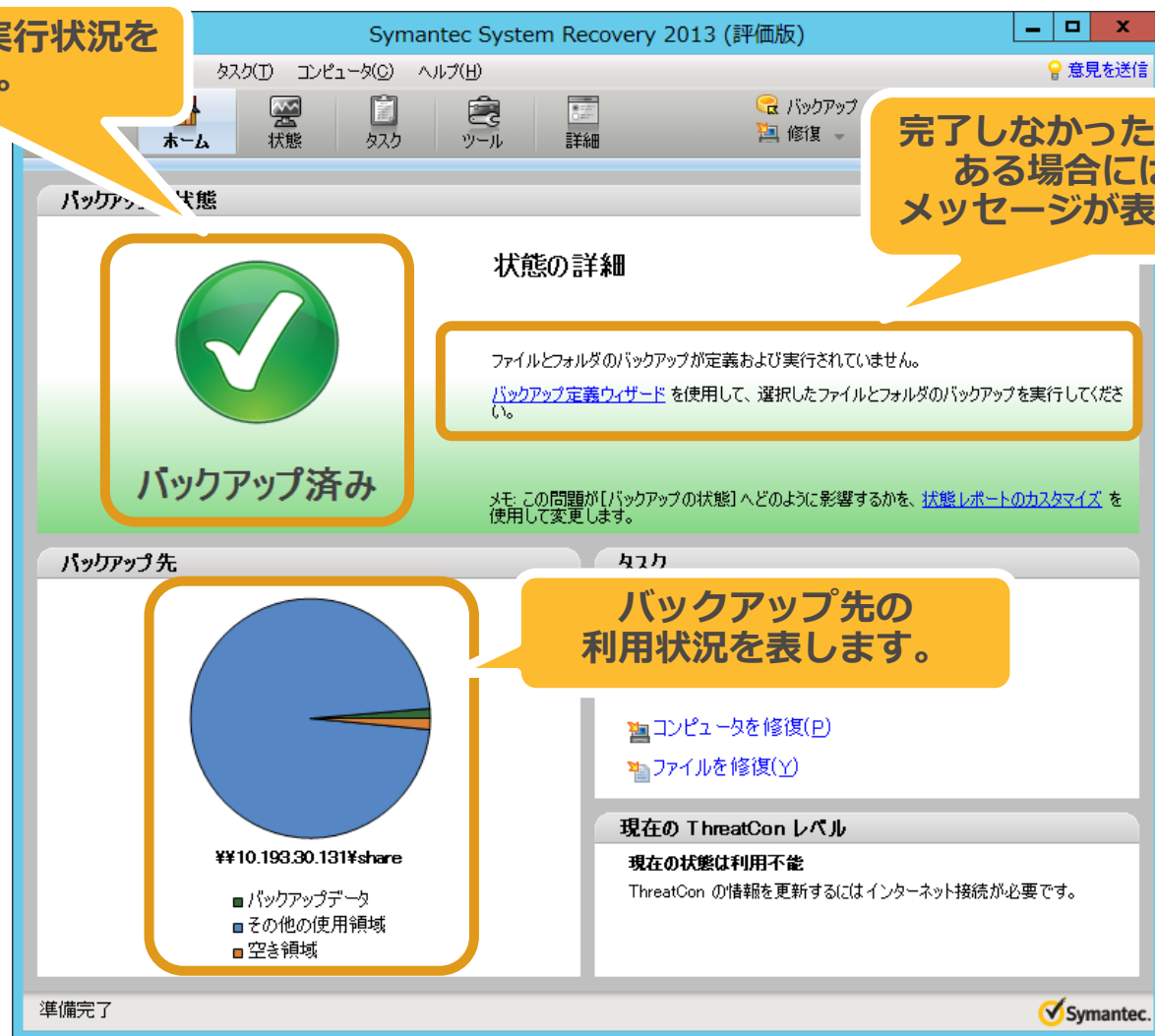
【付録】

付 録

- ホームタブの表示について
- バックアップデータの管理
- バックアップデータ量の見積もりについて
- Symantec System Recoveryの情報を探すには

【付録】 ホームタブについて

バックアップの実行状況を
表します。



完了しなかったジョブなどがある場合には、その旨
メッセージが表示されます。

【付録】 バックアップの管理について①

- Symantec System Recoveryはリカバリポイントセットを1世代としてとらえ指定した世代数分のリカバリポイントセットをバックアップ先に保持しようとしています。
- 指定した世代数を超える場合、最新世代のフルバックアップを取得後一番古いリカバリポイントセットをバックアップ先から削除します。

毎週末にフルバックアップ
平日増分バックアップを行い
そのバックアップデータを2世代保持する場合



【付録】バックアップデータ量の見積もりについて①

【フルバックアップ】



＜バックアップ対象ボリュームの実データ量＞ x 0.6 ＜圧縮率標準の場合＞

【増分バックアップ】



＜概ねバックアップ対象ボリュームの実データ量の5%～10%程度＞ x 0.6 ＜圧縮率標準の場合＞

【リカバリポイントセット】

＜フルバックアップ + （増分バックアップ x ＜バックアップ実施回数＞）＞



【コンピューター1台あたりのバックアップに必要なストレージ領域】

（保持したいリカバリポイントセットの世代数 x バックアップセット1つあたりに必要なストレージ容量）

+ フルバックアップ一回分（フルバックアップ取得後に古いバックアップセットを削除するため）

+ α（想定外にデータが増えた時のためののりしろ）



世代数



【付録】バックアップデータ量の見積もりについて②

【見積もり例】

【例1】週に一回フルバックアップを実施するのみ。世代は残さず、最新のもののみ。

PC 1 台あたり、実データ量は60GB程度、PCは50台。

- ・フルバックアップ = $60\text{GB} \times 0.6 = 36\text{GB}$
- ・PC1台あたりのバックアップに必要なストレージの容量 = $36\text{GB} + 36\text{GB} + 8\text{GB}$ （のりしろ） = 80GB
- ・例1の環境に必要と考えられるストレージの容量 = $80\text{GB} \times 50 = 4\text{TB}$

【例2】週に1回フルバックアップを実施、増分バックアップは平日毎日実施。3世代保持したい。

サーバー1台あたりの実データ量は600GB程度、サーバーは5台。

フルバックアップ = $600\text{GB} \times 0.6 = 360\text{GB}$

増分バックアップ = $30\text{GB} \times 0.6 = 18\text{GB}$

リカバリポイントセット1つあたりに必要なストレージの容量 = $360\text{GB} + (18\text{GB} \times 5) = 450\text{GB}$

PC1台あたりのバックアップに必要なストレージの容量 = $(450\text{GB} \times 3) + 360\text{GB} + 140\text{GB}$ （のりしろ） = 1850GB

例2の環境に必要と考えられるストレージの容量 = $1850\text{GB} \times 5 = 9.25\text{TB}$

【付録】 バックアップデータ量の見積もりについて③

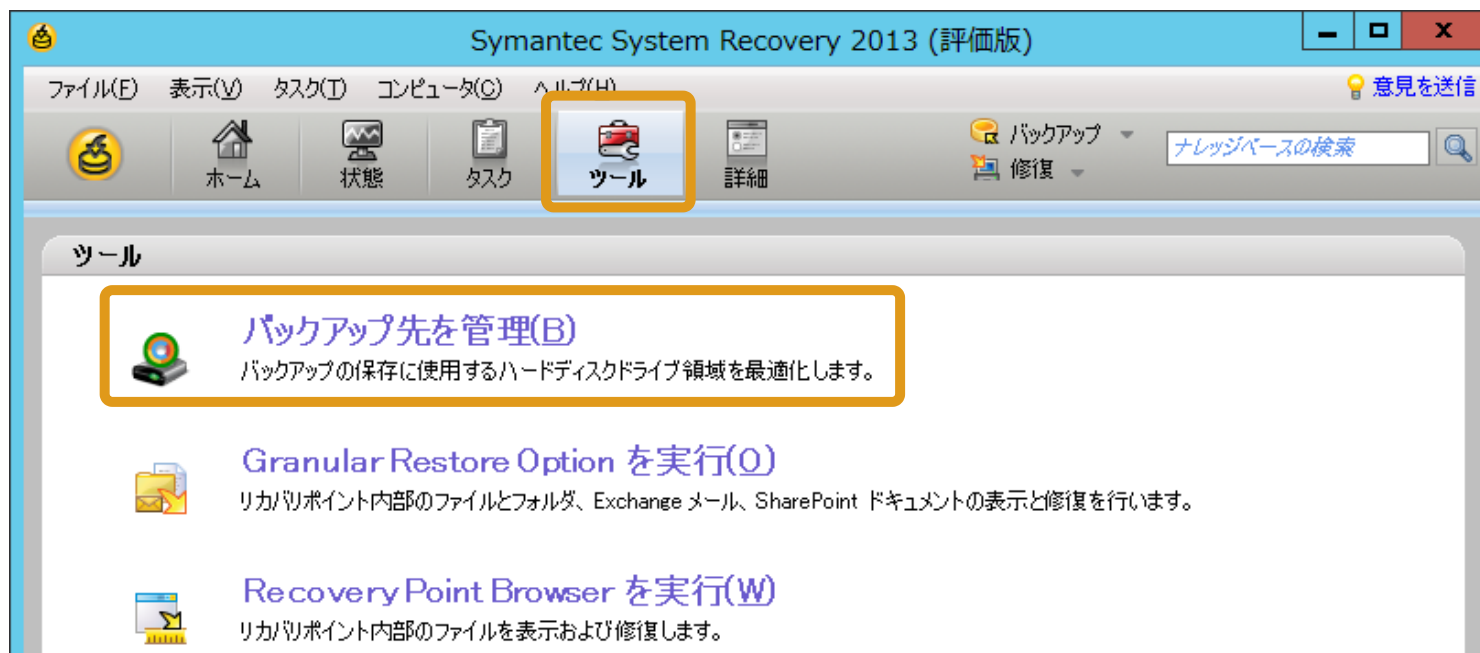
【TS451をバックアップ先に利用した場合】

- **TS451は高速なH/Wを備え、一般的なNASを利用した場合に比べ高速なバックアップを可能とします。**
- **1TBあたりのバックアップに3時間程度を要すると仮定した場合、2TB程度までであれば毎晩フルバックアップも可能です。**
- **1TBのフルバックアップを取得した場合バックアップデータのサイズは、600GB程度と想定されるためフルバックアップを取得した場合、5TBモデルでは丸1週間分のフルバックアップデータの格納が可能です。**

【付録】バックアップ先の設定について①

【バックアップ先の管理】

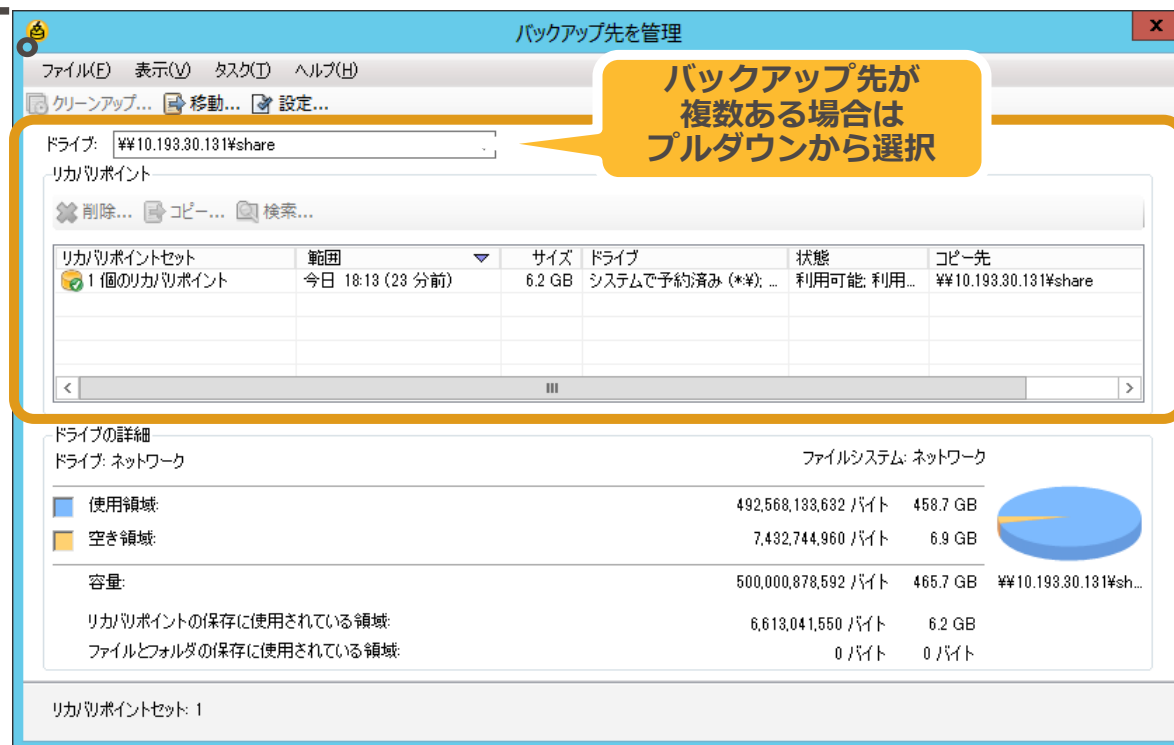
- 「ツール」タブ⇒「バックアップ先を管理」を選択するとバックアップ先について、いくつかの操作や設定が可能です。



【付録】バックアップ先の設定について②

【バックアップ先を管理画面 ～その1】

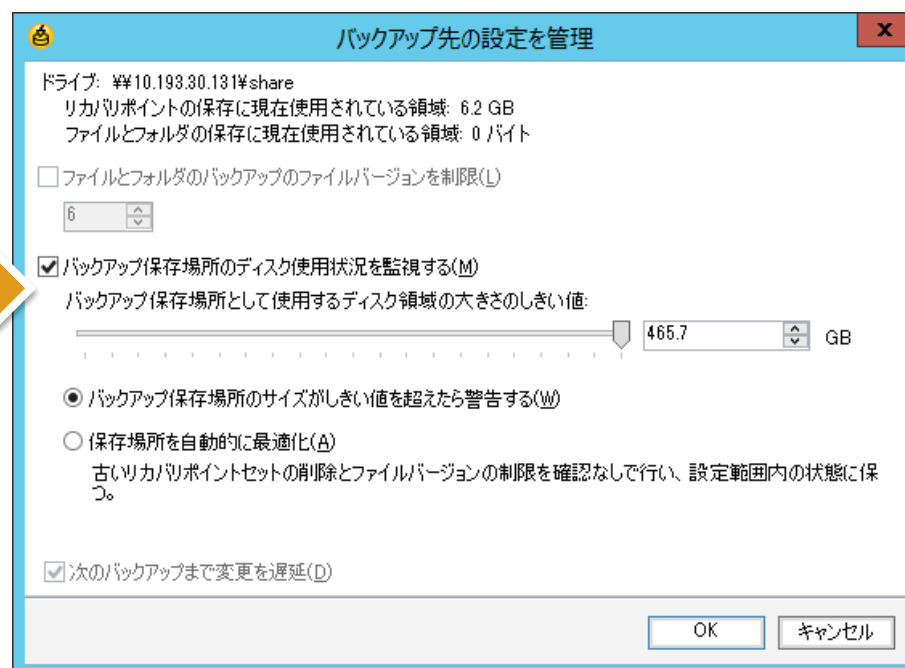
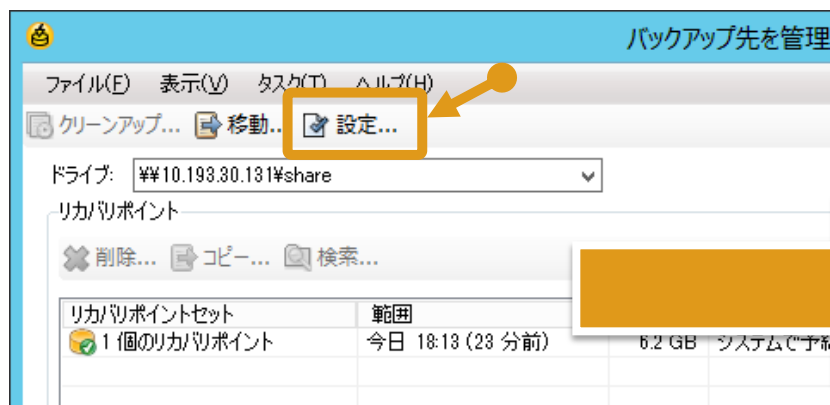
- 「バックアップ先を管理」画面では、バックアップ先に格納されているバックアップデータの確認や削除などが可能です。



【付録】バックアップ先の設定について③

【バックアップ先を管理画面 ～その2】

- 「バックアップ先を管理」画面上部の「設定」をクリックすると「バックアップ先の設定の管理」画面が表示されバックアップ先に対する設定などが可能です。



【付録】バックアップ先の設定について④

【バックアップ先の設定を管理画面】

- バックアップ先のディスク領域のしきい値や、しきい値を超えた場合の動作を設定する事で、より安心して運用する事が可能です。

バックアップ先の設定を管理

ドライブ: ¥10.193.30.131¥share
リカバリポイントの保存に現在使用
ファイルとフォルダの保存に現在使

☐ ファイルとフォルダのバックアップのフ

6

☒ バックアップ保存場所のディスク使用状況を監視する(M)
バックアップ保存場所として使用するディスク領域の大きさのしきい値:
350.1

☒ バックアップ保存場所のサイズがしきい値を超えたら警告する(W)
☐ 保存場所を自動的に最適化(A)
古いリカバリポイントセットの削除とファイルバージョンの制限を確認なしで行い、つ。

☒ 次のバックアップまで変更を遅延(D)

OK キャンセル

バックアップ先のディスク使用状況の監視
および、しきい値の設定が可能です。
フルバックアップひとつ分程度の空き領域を確保するように設定しておく
と、容量不足によるバックアップ失敗の可能性を減らすことができます。

しきい値を超えた場合の動作として
「保存場所を自動的に最適化」に設定すると
ディスクの使用量がしきい値を超えた場合
自動的に古いリカバリポイントセットを
削除してくれるので便利です。
※デフォルトは警告のみ

【付録】

Symantec System Recovery と QNAP Turbo NAS の 情報を探すには

- Symantec System Recovery に関する技術資料は、
以下のURLにて、ご確認ください。

✓ <http://www.symantec-smb-solutions.com/jp/partner/backup#ssr2013>

- QNAP Turbo NAS の製品情報は、
以下のURLにて、ご確認ください。

✓ <http://www.forcemedia.co.jp/qnap/index.html>



Thank you!

株式会社シマンテック  株式会社フォースメディア
2014年9月

Copyright © 2010 Symantec Corporation. All rights reserved. Symantec と Symantec ロゴは、米国における Symantec 社およびその関連会社の登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書は情報提供のみを目的としており、広告ではありません。本書に記載された情報に関する保証責任は、明示または暗示を問わず、法律で認められる最大の範囲まで免責されるものとします。本書に記載された情報は予告なく変更される場合があります。